

地域づくりアドバイザーが いぶきの里を訪れました

2月21日(日)に、地域づくりアドバイザーが来町し、いぶきの里にて地域づくり協議会の役員4名と懇談しました。町が、総合計画とコミュニティ計画について外部の専門家に意見を求める際に、協議会役員の方からも意見を聞いてもらおうと企画したものです。アドバイザーは、首都大学東京の大杉寛教授と日本大学の沼尾波子教授のお二人です。

まずは東上有田にて、田舎暮らし研究交流サロンをご案内して、地域おこし協力隊員の西塔、若岡両名を紹介し、サロン開設に至った経緯や、古民家を改装した手法、来館者のこと、隊員の活動の様子や着任に至った経緯などを説明し、お二人とも興味深そうに聞きながらあれこれと質問していました。

地域おこし協力隊員とはここでお別れし、上毛町の地域づくり活動の拠点であるいぶきの里へ移動し、企画情報課職員も同席して話し合いが始まりました。

コミュニティ計画に掲げた88プロジェクトの取り組み状況や、協議会の運営にまつわる苦労話、また役員さん個人の地域づくり活動についてのお話など、およそ2時間に渡って終始和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。(企画情報課 林)



▲田舎暮らし研究交流サロンにて



▲いぶきの里にて



▲仲町をご案内していただきました



▲左から大野さん、小野さん、繁里さん、鎌田さん ▲佐伯市まちづくりセンターよろうや仲町



▲佐伯城跡三の丸櫓門前にて

上毛町地域づくり協議会だより 先進地視察研修 佐伯市まちづくりセンター よろうや仲町

住んで良かったと思える上毛町を住民の力で次世代に引き継ごう

3月8日(火)、地域づくり協議会役員8名に企画情報課職員1名が同行して、大分県は佐伯市へ視察研修に行ってきました。ご承知のとおり、佐伯市は大分県南東部に位置する市で、人口約7万5千人、面積903平方キロメートルは九州で一番広い市です。また年間を通してさまざまなイベントが実施され、4月2日(土)、3日(日)には『さいき春まつり』が開催され、初日は竹灯籠イベント『竹灯物語』があります。

さて、今回の訪問先に佐伯市を選んだ理由とは、まちづくり組織が株式会社になっているとの情報を得て、いったいどういうことなのか、実際に現地で聞いてみようという目的からです。行先は、佐伯市まちづくりセンター『よろうや仲町』さんです。

東九州自動車道を佐伯ICで降り、10分ほど行くと佐伯城跡や歴史資料館、国木田独歩館といった史跡・観光名所のほか市役所や郵便局等が立地する佐伯市中心市街地に出ます。待ち合わせ場所の歴史資料館駐車場へ迎えに来てくれたのは、株式会社まちづくり佐伯の大野さん、同じく地域振興課の繁里さんです。『よろうや仲町』のミーティングルームにて、センターの鎌田さんも加わりお話を伺いました。

佐伯市のまちづくりは、総合計画を基本とする都市計画マスタープランにおける『中心市街地活性化基本計画』が基礎となります。この計画に取り組み中で、国のまちづくり会社支援事業により、平成20年7月に中心市街地活性化協議会準備会が、平成21年9月には株式会社まちづくり佐伯が設立されました。また、『よろうや仲町』は市民協働のまちづくりへの取り組みの中で、来街者の憩いの場、市民協働の拠点として開所されました。会議室や相談コーナー、印刷機などが設置され、打ち合わせや交流スペースとして、また、イベントや会報作りの作業場などとして利用されています。これまでに120の団体や個人が登録して活用しているそうです。

『よろうや仲町』が場所の支援とすれば、事業費の支援として『佐伯市活性化チャレンジ事業』があります。これは公開のプレゼンテーションによって審査を行う点など、上毛町の地域づくり活動事業支援補助金と似た内容のある仕組みです。

上毛町では地域づくり活動団体が集う形で、活動の拠り所としての地域づくり協議会を立ち上げ、いぶきの里を設置しています。

(企画情報課 林)

